ピースフォーアースの実行委員会会長であり、特定非営利活動法人フォーエヴァーグリーン理事長の渡邊圭氏にお話を伺います。

〇渡邊さんの経歴について教えてください

私は2005年、26歳の時に会社を起業して、ジュエリーのデザインやプロデュース等を行っていました。その傍らミュージシャンとして音楽活動を続けるなか、2008年からは特定非営利団体フォーエヴァーグリーンの理事に就任し、2014年には代表理事長として学生や若年層に向けた勉強会やSDGsの活動紹介等を行っています。
2020年には、ピースフォーアースの実行委員会会長に就任し、SDGs啓発イベントを通じて地球温暖化防止活動に取り組んでいます。

〇興味深い経歴ですね！SDGsの活動とは紐づきにくいですが、なぜ現在の活動をすることになったのですか？

■運命的な出会い、そこで知った地球温暖化

音楽を通じた当団体の初代理事長との出会いですね。
とにかく自分の音楽を芸術として評価してほしくて、偶然出会った理事長に「音楽を聴いてくれ」とお願いしたことがきっかけです。
その後招待されたのは、なんとイギリス大使館の晩餐会。そこで初めてイギリス政府の首席科学顧問より地球温暖化の話を聞きました。当時の日本では今ほど地球温暖化が世の中で認知されていない2008年頃のことです。

■そこで初代理事長から受け取ったバトン

「自分の利益だけじゃなくて世界のために働きなさい。」
「君には才能がある。もっと大きな仕事をしなさい。」

そう初代理事長に言われてこの団体を譲り受けたんです。引き受けたからには必ずやり遂げる。「何がしたいか」ではなく「何を頼まれたか」、私はそういう性格なので今は”地球温暖化を全力で止める”このことだけに注力しているんです。

〇出会って間もない、しかも何もわからない人に会社を託したとは驚きです。よっぽど渡邊理事長の才能や熱意を感じたのでしょうか？

その頃は、ジュエリー等の制作メーカーの取締役として会社は順調にいっていました。世界的アーティストのコレクションのデザインをプロデュースしたこともあるんですよ。

（画像：オリジナル ジュエリーコレクション）

音楽の方も、着ウタサイトで5週連続1位を獲得したこともあって、アメリカに渡り楽曲をiTune’sからリリースして、どちらかというと「芸術家肌」。やりたいことや目標に向かって感性で突き進むタイプでどんどんアイデアが浮かんでくるんですよ。音楽はユニバーサルランゲージ=世界共通言語、言葉が通じなくても伝わることを、アメリカで体感してきました。想いや情熱は必ず伝わるとアメリカで心と全身で感じました。

16歳の時に音楽と出会った時、ちょっと表現が大袈裟ですが、体に電流が走るくらい「これだ！」と思いました。それまで特に目標がなかった私にとっては、初めて何かに打ち込めるものを見つけた瞬間でした。何かに熱中すると目標に向かって一直線なんです。アメリカ

に渡って実際にデビューを果たしたりする自分の行動力は、周りから見るとパワーがあるようで、初代理事長もそういった私の“実行力”や“実現する力”をひとつの才能と思ってくれたのかもしれませんね。

（画像：アメリカ・ラスベガスでライブの世界配信を行っている様子）

○この活動を通して何を訴えていきたいですか。

■10歳で母親を亡くしホームレスだって経験した。なんだってできる。

私は若いうちから辛いことも厳しい現実もたくさん経験してきました。
10歳で母親を亡くし、木刀で殴る父親に反抗して家を出たり不良行為に走ったり…。若くして結婚、離婚、会社の起業と随分と濃い経験をしました。もちろん手に入れるもの、手放すもの両方ありましたが、今は人のために何かをしたいという気持ちが自然と湧いてきます。

私の母は亡くなる前に、こんな言葉を残してくれました。

「あなたの頭にはダイヤモンドの原石をいれてある。心にはキレイな花の咲く花の種を植えてある。毎日ダイヤを磨き心に水をやりなさい」

母が残してくれたこの言葉は息子への愛で溢れています。世界中のお母さんも子供を愛おしく思い、幸せな人生を送ることを望んでいます。だから子供たちにこの地球を残したいし守っていきたい。ママがサステナブル商品を手に取ることもそうです。その行動の背景には、こどもたちへの”愛”が詰まっているのだと思うのです。

地球温暖化やSDGsの活動は、1度何か影響力のあることをすれば直ぐに改善することではありません。毎日ダイヤを磨いて心に水をやるように、ひとりひとりが少しずつできることを積み重ねることが重要だと思っています。「こんな取組みをしている商品があるのか」とか、「地球にとってはこっちの行動の方がいいね」など、まずはたくさん知って興味を持ってほしいと思っています。
i

〇お母さまのお言葉とても素晴らしいですね。まさしく「愛」で溢れています。

さて、様々な人生経験をされた渡邊理事長ですが、今後はその受け取った「愛」を原動力に環境問題をどのような発想や施策で解決されるのか、活躍がとても楽しみになりました。本日はありがとうございました。

私は幼少の頃から人に甘えたり、自己表現が上手なタイプではなかったかもしれません。子ども時代から役者をしていた弟がチヤホヤされ、要領がよかったのに対し、私は父親に反抗してよく叱られていました。
10歳で母親を亡くし、子供ながらに自立心が芽生えた私は、「甘えてはいけない」と思っていたのかもしれませんね。

家庭に居場所が無かったせいでずっと自分のルーツ、アイデンティティを探し続けていました。甘えることも頼ることもできなかったせいで、不良行為に走り、喧嘩したり公園で寝泊りしたりと随分荒れていた時期もありました。でも私は、自分の意思を大事にするタイプ。誰に何を言われてもあまり気にもしないので、どんなに反対されたり周りに煙たがられても「自由に生きていきたい」、自分らしい生き方、想いを貫きます。経済を優先した時代の次に時代、これらの時代に必要なのは**愛「与えることで感じる喜び**」だと私は直感で感じたので、そう呼びかけたいと思います。

私たちは愛し合うことで幸せになれるからです。